



全組合員の組織力で東日本ユニオンをさらに強化・拡大しよう!



JR東日本労働組合新潟地方本部
第10回定期地方委員会

新潟地本は2月25日、新潟市の万代市民会館において第10回定期地方委員会を開催しました。構成員・傍聴者あわせ約150名の組合員の結集のもと、2024春闘の取り組みをはじめとした、向こう半年間の活動方針を確立しました。

2024春闘勝利に向けラストスパート 全組合員で取り組みを創り出そう

新潟地方本部 星山執行委員長あいさつ

元日に能登半島地震が発生した。被災した皆さんにご冥福とお見舞いを申し上げます。新潟地本では人的被害こそ無かったものの被災した組合員がいる。地本として支援の方法を考へ取り組んでいく。

今年で昭和採用の先輩が全て退職される。多くがエルダー組合員として活躍されている。立場や環境は変わっても共に組織を強く大きくしていきたい。



◇ 今定期委員会は2024春闘勝利に向けて、全組合員でラストスパートを切る新たな決起の場だ。情勢を見れば政府から企業に賃上げが要請され、ホンダをはじめ賃上げの動きが活発化している。依存はしないが良い風ではある。物価は更に2%上がる予測もあり、実質賃金の低下は続いている。

◇ JR東日本は第3四半期決算において通期の業績予想を上方修正した。一方で私たちの働く環境はどうか。業務融合、活躍フィールドの拡大など、働く環境の変化に不満が噴出して

いる。組織再編は枠組みを作り現場任せ、ルールの運用は現場の管理者任せになっている。業務融合が目的となり労働者の不利益があっても泣き寝入り。そんな会社にはしないために東日本ユニオンとして団体交渉を通じて訴えてきた。言うべきは言いつつ、会社施策を真面目に担ってきた。その対価は増えて当然だ。力強く堂々と要求を語ろう。

◇ 会社の言う「安全が大前提」の運営がされているか。ルールの変更や教育に課題はないか、労働側の視点は入っているのか。妥協なく取り組んでいく。労働時間の改ざんによる賃金未払いが発生し、二度三度にわたり精算が発生した。誰が指摘したのか。労働組合がなければこの精算はされなかった。間違いなく労働組合の

存在意義、必要性は職場で働く仲間には伝わっている。

2024春闘は人件費を抑制しようとする会社側と我々労働側の対決だ。その中で新たな加入を目指す。

明日からの闘うパワーを持ち帰れるような委員会を全参加者でつくり出そう。

中央本部 生田書記長あいさつ

組織全体で団体交渉を作り満額を

◇ 今委員会に来賓として、中央本部の生田書記長、阿部組織・情宣担当部長、本山組織・情宣担当部長に出席をいただきました。

◇ 2月13日に春闘要求を提出した。要求の根拠は働く仲間の声だ。会社側に要求満額を支払えない理由はない。組織全体で団体交渉を作り満額を勝ち取っていききたい。



中央本部 生田書記長

◇ 東日本ユニオンの結成から10年となる。今の組織が何もせずにはできなかったのか、目指して取り組んできたのかで結果の部分で大きく違う。各地で起きているパワーハラや就業規則違反を許さず健全な企業運営を求めていく。

◇ 暫定予算案をはじめ全ての議案は満場一致で承認され、向こう半年間の方針を確立しました。

◇ 手当の同時期議論の提案がされた。東日本ユニオンの主張は、①求めているのは議論の時期ではなく納得のいく回答である。②賃金を抑え込む手段に活用される恐れがある、ということだ。組合員の利益、納得できる賃金や手当を一番に考え判断する。労働側が主体性をもってその都度判断していく。

◇ また、営業統括センターの発足、運輸車両部門の組織再編をはじめとする会社再編をはじめとする会社再編に伴い生じている課題や実態、安全に関する事象や職場で発生した業務的課題の改善に向けた取り組みの報告もされました。

11名の委員が職場からのたたかいを発言

◇ 質疑では11名の地方委員から発言を受けました。2024春闘や2023年度年末手当における要求満額獲得に向けた取り組み、組織の強化・拡大を意識した取り組みなどを

発言しました。

2024春闘 要求を実現しよう!

エルダー社員の基本賃金を一律6千円の引き上げを



東日本ユニオンに結集しよう!